MARCH 2019

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.26

ドキュメンテーション

ノート PC の返却に集まった 12 期生の皆さん

ドキュメンテーション学科 12 期生の卒業を祝して

大学を卒業されることがみなさんにとって豊かな人生の始まりとなることを願っています。これからの人生は、ひとり立つことを学んでいく生活です。そんなみなさんに言葉を贈ります。

何もない空

若鳥は　空を遠くに眺めても　待つ親鳥は　もう戻らない
翼を動かす　大丈夫　ついている
足を動かす　大丈夫　つかんでる
いつのまにか　大人になってた
だけど　この木を離れるのが恐い　この木を忘れるのが恐い
遠くで一羽　翼を広げ　風を受け　空をつかんで　笑ってる
空を見上げて立ち上がり　みとれていたら　空に落ちた
翼を広げ　背伸びする　息をすると　空にいた
巣は小さく　もう木は見えない
何もない空に　自分だけがいる
遮ぎるものがない空は　さみしいけれど　美しい
その先に何があろうと　何もない空は　美しい

ドキュメンテーション学科　大矢 一志

角田裕之研究室

安藤　勝広　図書館のマスコットキャラクターを使った広報活動の分析・研究
井川栄理子　デザイナーにおけるブックデザインへの意識調査と考察
打越　大樹　考古学雑誌が引用している資料の傾向と分析
片桐　達昭　鶴見大学図書館の学生選書ツアーにおける年度ごとの学生のニーズについての考察
工藤　真士　Twitter での情報発信による公共図書館の評価への影響の考察
髙濱　美月　IC タグが図書館にもたらす効果の研究　―導入・未導入図書館の比較と考察―
八塚　　恵　鶴見大学生における『ポケットモンスター』の人気の実態の考察
山本　海里　日本と外国の図書館制度における比較研究
山本　栄弥　公共図書館における利用者に起因する危機管理の実態と対策についての分析・考察

大矢一志研究室

伊藤　瑳知　地方自治体のマルチメディアマーケティングにおける情報区分の分析
―青森県・宮城県・福島県の観光情報を対象に―
榎本　拓実　紙書籍と電子書籍の読書感の違いについて
高地　海渡　ジャンルの異なりが読書スタイルに与える影響について　―漫画の読み方―
室伏　秀俊　Web 小説の書籍化がライトノベル新人賞に与える影響
森　　直樹　MEI ガイドラインに基づく電子資料作製の研究

河西由美子研究室

池田　優哉　絵本賞受賞作品の主題分析に関する研究
石橋　将悟　大学生を対象とした昔話の影響に関する研究
岩本　紘明　神奈川県公立図書館におけるヤングアダルトサービスに関する研究
宇佐見千映子　図書館における児童向け掲示物の効果に関する研究
太田　茉奈　保護者が子どもの読書に与える影響に関する研究
桑原　香奈　居場所としての図書館に関する研究
關　　圭太　マルチメディア DAISY 教科書の利用に関する研究
戸澤穂乃香　神奈川県内の移動図書館に関する研究

田辺良則研究室

上野　大樹　ボーカロイド曲の投稿動画名から曲情報を取得する手法について
杉山　治紀　ニューラルネットワークを用いた図書の自動分類
竹迫　優花　機械学習を用いたくずし字の画像認識
伊藤　千尋　HTML と CSS を対象とした電子教材の試作
高野　昭喜　セイバーメトリクスを利用した日本プロ野球データの解析
富澤　　貴　ゲームソフト週間売上データの解析
皆川　乾太　PHP を用いた OPAC システムの試作
斎藤　雄介　競技環境の変化が野球に与える影響について

元木章博研究室

大学生を対象とした案内用図記号の認識に関する現状調査　愛知　康美
利用者ニーズに応じたマルチメディア DAISY 図書の製作者ネットワーク構築へ向けた調査及び提案　井上　美紀
聴覚障害者を対象とした鉄軌道会社による情報保障の現状調査　庵原奈津希
点字ブロックの設置状況及び不備の調査と地図の作製　―横須賀中央駅周辺のケース―　後藤修一郎
スマートデバイス基本 OS のアクセシビリティ機能と補填アプリの調査　代田　拓海
大学図書館の Web ページにおける利用案内の実態調査　平山　真衣
公立図書館の Web ページにおける破損資料に関する掲載情報の実態調査　堀米　優香
IFTTT を活用した教材開発と評価　―大学生を対象とした授業実践―　宮島　星哉

伊倉史人・加藤弓枝研究室

『童蒙教草』の研究　―原文と日本語訳の比較―　秋庭ひかり
昔話の変容　―『御伽草子』から巌谷小波まで―　岡村江里奈
鶴見大学図書館蔵『暮春白河尚歯会和歌〔絵巻〕』の研究　勝又　月浪
『横浜開港見聞誌』の研究　五島　麻帆
柿生郷土資料館蔵歴史資料の調査及び目録作成　近藤　冴香
奥書中の語句の用法と意味の考察　高見　朋佳
鶴見大学図書館蔵西洋古地図の研究　角ヶ谷晴香
藤原定家の字母使用研究　―その特徴と傾向―　富田　若奈
『あさきゆめみし』と田辺聖子訳『源氏物語』との比較研究　新倉　瑞紀
鶴見大学図書館蔵『源氏物語双六』の研究　西野比奈子
『梅園介譜』に引用された書籍に関する研究　能勢　彩加
妖怪に関するパスファインダーの作成とその活用の研究　福本　渚
鶴見大学図書館蔵『酒顛道士』の研究　澤藤　拓実
『風俗画報』の研究　―服飾門を中心に―　水野実菜子
西荘文庫についての研究　村上絵梨郁
鶴見大学図書館蔵『諸国新百物語』に関する研究　横田　花
古典籍目録についての研究　横山万里子

2018 年度　卒業論文題目

角田裕之研究室

角田裕之ゼミでは、主に図書館についての論文を執筆しています。図書館に関して分からないことが出てきても、先生に相談すれば詳しく教えてもらえます。論文は、基本的には自らの力で書き進め、書き方など分からないことがあれば先生に相談するかたちでした。自主的に行動すればするほど論文の完成度を高められます。演習では、毎週先生とゼミ生全員が集まって論文の状況確認や相談、ゼミ生同士でアドバイスし合うなどしていました。ゼミの雰囲気は毎年違うと思いますが、今年度は先生やゼミ生同士で協力し合う穏やかな雰囲気でした。角田裕之ゼミは、図書館や本に関するテーマを書きたい人、自主的に行動できる人に向いているゼミだと思います。［髙濱美月］

田辺良則研究室

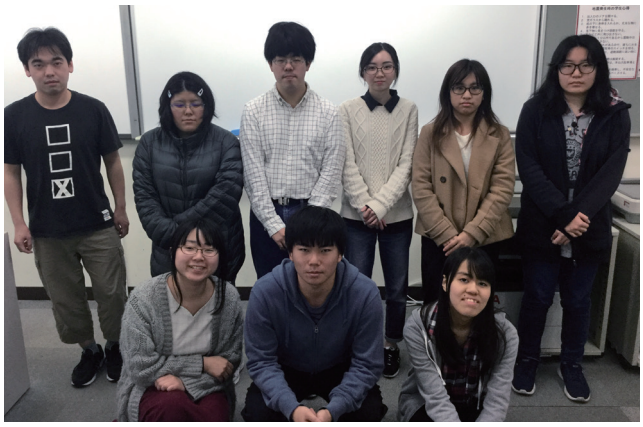
田辺研究室では、主に情報学の分野で卒業論文を執筆します。週に一度、その一週間の進捗を全員の前でプレゼンテーションし、研究生と田辺教授から質疑応答を受け、課題の明確化などを行います。また、夏休みには田辺ゼミのゼミ生と教授での一泊二日の合宿があり、半年間でどれだけ研究が進んだか、今後の方針に支障はないかなどをプレゼンテーションする中間発表会を行います。ゼミのメンバーや田辺先生と常に意見を交わし、個人の視野を超えた発想・改善方法などを聞くことで、卒業研究のクオリティを上げるようにしています。［上野大樹］

大矢一志研究室

初めて書く卒業論文はわからないことが沢山あります。私はテーマを決める時点からつまずきました。簡単そうに見えてテーマを決めることは非常に大変です。やりたいことが明確でなければ題目も決められません。またみなさんには進捗の余裕のためにも、年間スケジュールを立て、計画的に執筆に取り組んでほしいです。卒業論文の作成は、精神的に追い込まれる時期が必ず来ますが、私の場合は生活が乱れ身の回りのことが疎かになりました。そんな時には先生方が必ず助けてくれます。卒業論文を甘く見ずに頑張ってください！［伊藤瑳知］

元木章博研究室

元木研究室では、調査系・開発系・授業系の 3 つのことについての研究テーマを扱います。今年度は調査系が多く、図書館の利用案内や破損資料についてなど様々な調査が行われました。卒業論文演習では、発表の仕方について、先生とのミーティングの仕方などの指導があり、研究以外にも学ぶことが出来ます。後輩や OBOG の方とのつながりも大切にしているため、様々な話を聞くことが出来ます。先生や OBOG の方、後輩たちから支えられて成長できる場所です。［宮島星哉］



河西由美子研究室

河西研究室では、図書館学に関する論文を主に扱っています。ゼミでは各自卒業論文の進捗について発表し、先生やゼミ生の意見を聞いて自身の卒業論文を進めて行きます。卒業論文の研究方法には、学生などを対象とした質問紙調査や多くの文献を調査する文献調査、実際に現地の人の意見を聞くインタビュー調査などの様々な方法があり、自身の論文に適した方法を用いて卒業論文の完成を目指します。研究成果をゼミ外の人に発表する機会もあり、自身の研究を相手に伝わりやすいようにパワーポイントにまとめる作業や発表を通して、大学卒業後も役立つ力を身に付けることができ、自身の成長につながります。　［太田茉奈］

2018 年度　研究室紹介

加藤弓枝研究室

加藤先生のゼミで、１年間卒業論文を指導していただきました。新任の先生で、まったく面識がなかったことから、ゼミの所属が決まった当初はとても不安がありました。しかし、面倒見の良い先生で、的確なアドバイスも頂戴でき、自分のペースで研究を進めることができました。今年の書誌学コースは、伊倉先生のゼミと合同で演習を行っていたため、２人の先生から異なる視点でアドバイスをいただくことができたことも、とても有り難かったです。また、同じゼミの仲間が相談にのってくれたり、一緒に頑張る子が近くにいたりしたことで、無事に卒業論文を書き上げることができました。加藤先生、伊倉先生、書誌学ゼミの仲間に心から感謝しています。［村上絵梨郁］

伊倉史人研究室

伊倉ゼミに入って、４年間学んだものを研究し、まとめる大変さを実感しました。ゼミでは毎週調べたことを発表する時間があって、その都度細かくアドバイスがもらえました。他のゼミの友人の話を聞くと、夏までに 8000 字というように、個人の力で卒論を進めなければならなかったようですが、伊倉ゼミでは毎週少しずつ進めて、徐々に研究が進んでいく達成感が感じられ、さらに新たな課題も生まれ、充実感を味わえました。卒論執筆中の約８ヶ月の間には、モチベーションを保つことが難しいときもありました。それでも毎週集まり、仲間同士で発表し合い、少しずつ進めていくという方法は、とても私に合っていたように思います。［秋庭ひかり］

学生の声

コース選択

図書館学コース　司書の仕事の裏側を知る

中尾 悠奈

私は三年生になったら、図書館学コースを選択しようと考えています。

２年生の前期に、情報サービス演習Ⅰという授業を履修していました。５人ほどでグループを組み、教科書にあるレファンレンスの問題を解いていきました。「アガサ・クリスティーの本名または別名を知りたい」という問題の時は、本名にたどり着くまでに五冊の書籍を利用しました。これは、たとえ１冊目で答えが出たとしてもそれが事実かどうかを別の書籍でも確認し、質問者に間違った情報を与えないようにするためです。面倒にも思いますが、司書の仕事はこの正確さが求められることだと改めて学びました。

同じ時期に、プレゼンテーション演習というものも履修していました。毎週プレゼン発表をするこの講義の資料探しは主に図書館で行います。その時に活用していたのが OPAC です。館内の蔵書検索システムで、単語を入力するだけでも何冊かの書籍を提示してくれます。この、単語でも検索がヒットするのを可能にしているのが書誌データ作成だと知ったのが、ドキュメント処理演習Ⅱです。最初は、日本目録規則など意味が分からないことが多かった授業ですが、学んでいくうちに書誌データの存在意義や目録作成の重要性を理解しました。目録作成は地味で大変ですがこれがあるからこそ簡単に本を見つけられるのだと感じました。

情報学コース　学び方で興味や関心を持つことができる

椎木 彩香

私は情報学コースを選択しようと考えています。

２年生の後期開講の高野健太郎先生の「データベース演習Ⅰ」で SQL のデータ抽出の仕組みや、答えを導き出し方に楽しさを感じ、興味を持ちました。理系の勉強は得意ではないのですが、先生に教えていただいたり、友達と一緒になって考えたりすることでわからないところをなくすことができ、一つ一つの問題に対する取り組みに積極性が出るようになりました。不得意な教科でも、取り組み方で関心を持つことができるのだなと感じました。

人文情報学を学ぶ大矢一志先生の「情報システム各論Ⅰ」は、最初は理解することができず、苦戦しました。しかし、画像データに関する諸情報を記述することを学習し、写真からどんなことを感じ取れるか、伝えたい情報をいかに簡単に説明するか考えながら進める作業がとても楽しく、もっと知りたいと思えるようになりました。

これからは、今まで習ってきたことをもう一度復習し、これから勉強していく情報学にしっかりと生かせるようにしていきたいです。

書誌学コース　めざせ！ くずし字マスター！

小笠原 翔大

私は書誌学コースに進みたいと考えています。

書誌学基礎演習では、古い書物の書誌を９つのポイントで採ることを学びました。例えば、どのような蔵書印があるのか、本文は一行何文字、半葉何行で構成されているのか、書体には何が使用されているのといった詳細な項目を、目で見たり手で触れたりしながら、ひとつひとつ確認します。最初は難しく感じましたが、勉強を続けていくうちに少しずつ分かるようになり、一冊書誌を取り終えることができた際には、達成感を感じることができました。

また、古典籍読解演習Ⅰでは、古い書物などに用いられているくずし字を読解する授業を受けました。くずし字を読むことは初めてだったため、最初は挫けそうになりましたが、スマートフォンにくずし字読解練習用のアプリケーションをダウンロードして、必死に勉強をしていくうちに段々と読めようになり、楽しいという感情が出てきました。くずし字は、難しい文字だけではなく、現代で用いられている平仮名と同じものなど、最初から読める文字も含まれていて面白いものだと思います。

書誌学コースに進み、くずし字を読む練習をさらに積み、その能力を鍛えたいと思っています。くずし字が読めるようになれば、著者が書物を通して伝えたかったことを知ることができ、一層書誌学が面白くなると思っています。

入学して１年を振り返って

１年生にドキュメンテーション学科で過ごしてきたこの１年間のことを振り返ってもらいました。

この一年間で私は、興味を持てるものが格段に増えた。例えば好きなアーティストの出身地である岡山県にゆかりがあるということで桃太郎に興味を持ち、古典の授業がとても楽しくなった。また、表象文化論で得た知識をもっと深めたくなり、今までなら絶対に足を運ばなかったであろう美術展に今年は三度ほど行ってみたり、中世ヨーロッパが舞台となっている映画を観たりして、新たな楽しみ方を習得した。学んだことを趣味である作文に活かすことも楽しく、もっと様々な授業を受けたいと思う。

ドイツ語の授業は初めての経験でした。とても新鮮で面白いと感じました。ドイツ語だけでなくドイツの国のこと自体のことにも興味が湧き、最近では赤レンガ倉庫のクリスマスマーケットを体験してきました。

学食、大学周辺の飲食店の数からしてとても良い環境だと感じた。その結果ズボンがワンサイズ上がってしまう羽目に。大学の学食も安くてとても美味しく、いつもお米は大盛 ... 改善はここからだな。ランニングをして５キロは減らそうと思っている。

大学へ進学し一人暮らしを始めた。料理や、洗濯、家事全般できるのかと親に心配されたし、自分でも不安だった。しかし人は追い込まれると意外と乗り越えられるものだ。料理はお店に出てきそうなものを作ろうと創意工夫したり、自分の周りのことはしっかりと自分でできたりするようになった。

私は宗教のことをあまり知らなかったのですが、鶴見大学に入学して、総持寺のことや、宗教学を学んで、宗教は奥が深く現代まで歴史として繋がっていることを知ることができました。

パソコンを使って授業をするというのがとても新鮮でした。私は家にパソコンが無く、触れる機会があまりなかったため、最初はタイピングがなかなか速くなりませんでした。しかし夏になるころには 400 文字ぐらいの文章が 10 分ぐらいで打てるようになり、自分の成長を感じました。

大学の講義はレベルが高く、ついていけなくなりそうなこともあった。それでも、教授の方が楽しそうに講義をしているのを見てそれが伝わり、その授業が楽しみになる、という教科もいくつかできた。「この教授の授業が楽しみで仕方ない」という感情は、大学に入ってから初めて感じたので、とても嬉しく思う。

高校の時、とても明るく、フレンドリーに接していただいた司書の方に憧れ、その職に就きたいと考えて進学を決めた。大学に入り授業を受けて、図書の知識だけを得ても社会では活躍できない、幅広い分野を学ぶことで利用者に満足してもらえる司書になれるのだなと、分かった。

人生で初めてアルバイトを経験しました。夏季の鶴見大学図書館でのアルバイトだったのですが、何もかもが新鮮に感じられました。経験しないと分からないような仕事を多く体験させていただきました。

授業で習うことはほとんど初めてのことだったので、だいぶ苦戦することもあった。しかし、前期が終わる頃には自分の中で余裕が生まれ、高校時代と比べ効率的に勉強を出来るようになり、好きなアーティストのライブやアニメイベントに行ったり、充実した自由時間が作れたりした。

授業紹介

特別実習Ⅰ

古書店目録のデーターベース化

古書店が毎年刊行する目録には、書誌学的研究で扱われるような古典籍の重要な情報が豊富に含まれています。今年度の特別実習Ⅰでは、そうした古書店目録のデーターベース化を試みました。目録に記された書誌情報を正確に読み取り、利用者の要求を想定して情報を整理し、データーベースの設計、運用方法を検討しました。書誌学、図書館学、情報学の３コースで学ぶすべて知識と技術が繋がっていることが実感できたことと思います。また、授業の成果をポスターにまとめ、11 月の図書館総合展で発表し、学内でも後輩たちを集めて報告会も行いました。

コミュニケーション、継続力、まとめる力

渡邉 真以［書誌学コース］

今回の実習で私は、大学でグループ学習をする意義を学びました。私たちは、高校までクラスと言う枠の中で集団生活をしてきましたが、大学３年生の現在はサークルなどに所属していない限り、ほとんど個人戦のように感じていました。しかし今回の実習では到底そうはいかず、ほとんど話したことのないメンバーでどれだけの物を作れるか、どのように協力していくかが問われており、それはこれから就職する私たちにとって、未来の疑似体験の様であると感じました。やり方やゴールを明確に設定されておらず、自分たちの協調性と継続的な努力だけで一から作り上げていくのは、義務教育とも高校とも違い自分たちの自主性が試されていて困難な部分も多くありました。しかし、この授業を受けたことにより、コンスタントなコミュニケーション・継続力・ある種のまとめる力が、今も、そしてこれからもっと必要になっていくものなのだということを再確認しました。

他コースの仲間との協力が鍵

河津 亜紗美［情報学コース］

古書店目録の電子化とデータベースの作成ならば、情報学コースの学生だけでも十分行えるのではないかと考えていました。しかし、実際作業を始めると情報学の知識だけでは課題を達成することは困難でした。古典籍や情報サービスについて学習してきた、他コースの学生と協力することの重要さを実感しました。

データベースを構築する際には、３年次までに学んできた技術だけでは理想の形にできず、個人で新たにソフトウェアやプログラミング言語を学びました。初めて使用するソフトウェアで、上手く動かせなかったりエラーが出たりと悩みましたが、データベースが完成した時はとても嬉しく思いました。

他コースの学生と協力して１つの課題をこなしたり、自分で学んだことが活かせたりする授業は他にはなかなか無いため、特別実習Ⅰを履修したことは私にとってとても良い経験になりました。

学内報告会：参加者と質疑応答

学びの姿勢を見直す機会

佐藤 優梨子［図書館学コース］

特別実習Ⅰは、古典籍大入札会目録をデータベース化するという新しい試みを行った授業で、前例や見本も全く何もない状態から新しいものを創造することの大変さを感じる場面もありました。しかし、私はそれ以上に他コースの人達と同じグループとなって作業を進めたことで、同じ学科に所属していながら各コースによって持っている知識の種類が全く異なるということを学びました。

実際に、データベースを制作する過程では、目録に書かれている古典籍の情報が何を示しているのか読み解く書誌学の知識や、入力したデータを WEB ページとして形にする情報学の知識など、各分野の知識を結集させることが必要になりました。

そのような中で、他コースの人達が今まで学習してきたことをしっかりと自分の知識として蓄積し、応用することができる姿を間近で目にしたことで、自らの今までの学びの姿勢を考え直すきっかけにもなりました。

特別実習という実践的な学びの場において、データベースを作り上げることができたことを嬉しく思うと同時に、座学では学ぶことのできない貴重な経験ができたと思っています。

学内報告会：ポスター発表

図書館総合展に参加

いろいろな発見がある図書館総合展

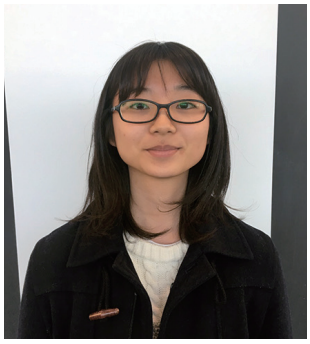
三浦 美紗季

パシフィコ横浜で開催された図書館総合展に参加しました。最初は企業や図書館関係者が参加するもので、近寄りがたい場所だという勝手なイメージがあったのですが、実際に参加して認識が変わりました。総合展は様々な人にとっての発見の場です。私が特に興味を惹かれたのは、図書館に関する事務用品を扱うブースで、写真にある禁帯出クッションもそこで購入したものです。古本市や活字の販売などもありました。他にも、最新の図書館について学んだり、図書館関係の企業研究をしたり、ブースによって色々な楽しみ方があると思います。会場内を歩くだけでも沢山の発見があるので、図書館に興味がある人こそ一度足を運んでみるべきだと思いました。

研究活動

情報バリアフリー推進会での活動

増渕 凜



私は情報バリアフリー推進会というサークルに所属しています。このサークルは、大学内外のあらゆる障害を取り除き、全ての人が生活しやすい環境づくりを目指しています。主な活動に、視覚障害者向けイベントでの誘導ボランティアや、話していることをタイプしスクリーンに映して文字化するパソコンテイクなどがあります。その他にも様々な活動を行っています。昨年は、国立大学のバリアフリーマップを調査し、研究会で成果発表をしました。今後は鶴見大学のバリアフリーマップを作成していく予定です。今回の調査研究の結果を活かしてより良いものにしていきたいです。このサークルが必要でなくなる日が来るようにこれからも活動を続けていきます。

「ホーナー日本交流基金」による米国図書館見学

星野 ゆう子

私は、日本国外の図書館で提供されている障害者サービスについて学ぶため、「ホーナー日本交流基金」を得て、アメリカ・アリゾナ州の図書館を訪問しました。公共図書館や大学図書館に加え、障害（けが等による一時的な障害を含む）を持つ人に対して支援機器の貸出を行なっている AzTAP（Arizona Technology Access Program）や、視覚障害者等に対して録音図書を貸し出すサービスを提供している Arizona Talking Book Library も見学させていただきました。館種を問わずどの図書館にも、車いす利用者のための机や図書等の文字を拡大するための拡大読書器等の支援機器が設置されており、図書館利用に障害を持つ利用者であっても、いつでも情報を得られるように配慮されていました。「情報拠点」として、どのような利用者にもサービスを提供しようとする図書館の姿勢を実感することができました。

海外研究者招聘 国際講演会報告

2018 年 9 月 26 日、オーストラリア・ヴィクトリア州学校図書館協会事務局長のスーザン・ラマーカ博士を本学にお招きし「オーストラリアの学校図書館」と題した講演をいただきました。

スーザン・ラマーカ博士は、オーストラリアを代表する学校図書館研究者であり、国際学校図書館員協会（IASL）のオセアニア地域ディレクターを務めるなど国際的にもご活躍されています。今回は、オーストラリアの学校図書館・専門職の制度に始まり、先進的な学校図書館デザインに至るまで、オーストラリアの現状について刺激的な報告をしてくださいました。

当日は本学科 3 年生を中心に 60 名以上の参加者がありましたが、「児童サービス論」等 3 年生の受講科目との関連からかオーストラリア文学に関する質問が出たことについてはラマーカ博士も大変お喜びで、講演資料以外の資料を用いて解説してくださり、充実した質疑応答で講演会を締めくくることができました。　（河西由美子）

左：河西　　右：スーザン・ラマーカ博士

No.16

【マルタ中央公共図書館〔フロリアナ、マルタ島〕】

The Central Public Library in Floriana, Malta

マルタ中央公共図書館

マルタ交通の中心地ヴァレッタのバスターミナルから南に少し下り、最初の交差点を西（右手）に折れ、高級ホテルを右手に見ながら急な坂道を下ってゆくと、公共図書館（Bibliotheca）の看板が見えてくる。その先にあるのがマルタに 56 箇所ある公共図書館のひとつ中央公共図書館である。

建物は横長に大きいけれど、使われている図書室自体はそれほど広くない。どうやら改装中で、これから空き部屋を活用してゆくとのこと。但し、計画はあるものの完成は何時になるか分からないらしい。案内してもらった部屋はまるで工事現場のような状態で、これを自分たちで整理するとのこと。こうした公共図書館の運営を支えるために、図書館で不要になった本は古本屋が図書館の 1F で販売をしていて、売上は図書館の運営に回される。いいお土産はないかと棚を物色していたら、図書館のラベルがそのまま付いている本があった。受付のおじさんに聞いてみると、これはまだ図書館の本で、売れたら廃棄のはんこを押して売るんだと除籍スタンプを見せてくれた。ラベルが付いていない本は市民からもらったものらしい。そんな話をしていたら、近所のお母さんがケーキをおすそ分けに持ってきた。わたしも自家製ケーキをご相伴させてもらう。マルタという小さい島国で、本を大切に共有してゆこうという人々の気持ちと工夫がこの公共図書館にはある。マルタ自家製のケーキの味は素朴でとても美味しかった。

販売している本

マルタはキリスト教にとって象徴的な場所でもあり、街の至るところに敬虔なキリスト教の御宅であることを表すモニュメントを見つけることができる。一方で、石だらけの痩せた土地で交易・観光を主たる収入源としてきたマルタの人々は、異文化の受け入れにとても寛容である。公共図書館でも、少ない予算で異文化・多言語に対応する工夫がされてる。マルタの歴史は戦場の歴史という過酷な面があり、それを生き抜いてきた清貧なる互助の文化が根付いている。日本も同じ島国として、貧しくも助け合いながら生きていたかつての選択肢をマルタの現代で見せてもらった気がした。（大矢一志）

マルタの街

アクセス：本文にあるようホテルエクセレントを右手に見ながら坂を降りるとすぐ。
開館時間：［冬季］月 - 金 8:30-17:45 土曜 8:15-13:00 ［夏季］月 - 金 8:30-13:15（水は 13:30-15:30 も）土 8:15-13:15 ＊日・祝日閉館
アドレス：M. Mangion, San Ġiljan, Malta http://www.libraries-archives.gov.mt/mpl/index.htm

学科・学会活動報告　2018 年 8 月～2019 年 3 月

■ 9 月 21 日　学内合同企業説明会
約 20 社に来学いただきました。授業が重なっている学生もいましたが、４年生が説明を受けていました。下級生にも参加者がいました。

■ 11 月 7 日～ 9 日　図書館総合展で発表
毎年、パシフィコ横浜で開催されている図書館総合展において、特別実習 I の受講生が、「古書目録のデータベース化」について成果報告をポスター発表しました。

■ 2 月 1 日　卒業論文口述試問
学生最後の集大成として 4 年生が卒業論文に取り組みました。そして、最後の試験として、自分の卒業論文について、指導教員との口述試問に臨みました。

■ 2 月 4 日　新２・３年生向けオリエンテーション
現１、２年生に向けて、来年度どんな時間割を組んでいくのか、どのコースを選ぶのか、といったことに関する情報をもとにオリエンテーションを実施しました。

■ 2 月 5 日　東京国立博物館見学会
国内外の貴重な美術品等コレクションをまとめて見ることが出来る東京国立博物館へ行って来ました。特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」が開催中で、そちらに足を延ばした人もいました。

■ 2 月 20 日　貸与ノート PC 返却
今まで４年間お世話になったノート PC を返却する手続きを１２期生全員で行いました。

■ 2 月 26 日～ 3 月 5 日　台湾でインターンシップ
　3 月 12 日　特別実習 II 成果報告会
台湾・世新大学での「特別実習 II （国際インターンシップ）」に、１５名の学生が参加しました。帰国後の１２日には学内で成果報告会を開催しました。

■ 3 月 14 日　平成 30 年度卒業式
ドキュメンテーション学科１２期生の皆さんが卒業しました。卒業式後、学科別に教室へ移動し、角田主任教授から一人ひとりに学位記が手渡されました。

学校図書館で働きたい人集まれ！
2019 年度入学生より学校司書の養成プログラムが始まります

学校司書は，平成 26 年の学校図書館法の一部改正により法制化された職名で，従来の司書教諭に加え「学校図書館の運営の改善及び向上を図り，児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため，専ら学校図書館の職務に従事する職員」として学校図書館に配置されています。ドキュメンテーション学科の学生は , 一年次から文部科学省が定めた「学校司書モデルカリキュラム」に基づいた科目を履修することで、卒業時に「学校司書」履修証明書が学長名で交付されます。

※ 活動報告の詳細は学科ブログ（http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/）でご覧になれます。

□「ドキュメンテーション」第２６号をお届けします。
□ １２期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
□ 特別実習 I では古書店目録のデータベース化に取り組みました。３コースの知識、技術を連携が求められる、これぞドキュメンテーション学科という授業です。

ドキュメンテーション　第２６号
平成３１（2019）年３月１４日（木）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒 230-8501　横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
☎ 045(581)1001　発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/